



鯨城学園在学中に赤色のウエアーを羽織って桜通代官町の街角でコース整理ボラをして以来、紫色・ライトグリーン・ピンク色、今年は淡い緑青色のウエアーと、早5年目になりました。その時のウエアーを見れば、その時の声援や、情景がよみがえってきます。

ボラ参加者説明会を在宅サービスセンター研修室を利用して2月23日に予定していましたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の延長により借室が閉鎖し、サービスセンターの駐車場をお借りして、昼を挟んで短時間の説明会になりました。その日は風も強く寒い日で簡単に集合場所・時間、自分の担当エリアと業務作業・班の編成の概要説明です。

ウエアー・帽子を配布して「詳しい事はボランティアマニュアルをお読みください」のお願いで五月雨解散です。

予定ではコロナ禍を考えて午前と午後に分けて昼を挟んで各々1時間程を予定していましたが、僅か各々15分程で済みました。

幸い皆さんのボラ経験と現地の土地勘もあり意外にスムーズに進行しました。

マラソン当日は天気も良く春の陽気でしたが、昨日の低気圧の吹き返りで風が強く、ビルの日陰では未だ冬の寒さが残っていました。

今年の担当エリアはBブロックの瑞穂通7丁目から新瑞橋交差点間の往路270mです。

8時15分に地下鉄新瑞橋3番出口に集合して、瑞穂通りを背に全員マスク姿の記念撮影をしました。今年は前回と違いコロナ禍により健康チェックシートが配布され、マラソン当日から1週間前までの検温と体調管理チェックが義務化されました。メンバーの新型コロナウイルスによる健康状態をお聞きし、健康チェックシートを受け取り、罹患が無いかどうかの確認をしました。幸い全員健康状態も良くボラ活動にご参加いただきました。

瑞穂通の街路樹の白き木蓮が、青空をバック

に清楚に咲き誇る中、露払いのパトカーを見送り、ホイールチェアマラソンが先行し、赤い制服の凛々しい女性ライダーの白バイが続き、左の視線の端に一瞬春の嵐を感じ、右の視線を追えばエリートランナーの集団は風になって視界から遠ざかりました。11,000人のカラフルなウエアーのウイメンズマラソンランナーは三車線一杯に煌めく大河を想わせる流れがありました。暫くして例年の半分の9,000人のシティマラソンハーフのランナーは新瑞橋交差点を右折して堀田に向かいます。小生は疲れ切った最後のランナー集団に惜しみなく拍手でエールを送りました。

事前に設置されたマラソン通行止立看板の「沿道での観戦はお控えください」の表示が徹底して、観客は少なく声援もわずかで静かなウイメンズマラソンになりました。やはり、無観客のスポーツイベントは寂しい限りです。

今回は例年と違い新瑞橋交差点を右折して直ぐの駐車場を利用したランナー用「仮設トイレ誘導」では利用者が多く、手洗い・消毒の混雑、ペーパータオルが無い等の他、歩道の自転車の横断整理で女性ボランティアの方に随分負担を掛ける事になりました。

ところで今回瑞穂鯨城会の会員19名の他に市議を初め、瑞穂公園太極拳グループの方にご支援いただきました。年齢構成も36歳から88歳と幅広い有志のご参加をいただき、男性19名女性11名の30名をメールでエントリーしました。小生は事務手続きをしましたが、サブリーダーお二方に背中を押してもらい、メンバーのご協力をいただき、無事にボラ活動ができました事。本当にありがとうございました。

(撮影：小塩紀夫・野村武弘)

